



ごあいさつ

せせらぎを歩き5月の風に吹かれると心が和みます。すれ違う人の表情はマスクで見えませんが、そのマスクがしゃれた色や柄だと思わず笑顔になり、振り返ることもあります。使い捨てマスクが以前よりは、手に入りやすくなりましたが、自分で作る人も増えてきました。これからも自粛解除になっても、「新しい生活様式」を守りながらの暮らしが続きます。コロナ禍を前向きに乗り切る創意工夫は必要になりますので、お互いに知恵を出し合い元気を出していきましょう。

緊急事態宣言は、5月31日までの延長となり、国は14日、21日に感染状況を検討する会を開き、今後の方針が打ち出されますが日々の出来事に小さな幸せを見つけ、明日からの日々に向かって行きましょう。

■新型コロナウイルスの感染拡大が、子育てにどのような影響を及ぼすか



子どもたちは、幼稚園や保育園・学校にも行けず、子ども同士の遊びができない・同級生に会えないということは、生活の中の体験談が入ってきづらく、断片的な情報ばかりが目につくという状況で、しかも情報の大半は、子どもたちに関係のないものばかりです。そして、いまだかつてない緊張状態のなかで、心穏やかに過ごすことは容易ではなく、ささいなことでもイライラが先行してしまう。普段であれば聞き逃せるようなちょっとしたことに過剰に反応し、言い争いに発展する。それぞれが自己嫌悪に陥り、さらに気が滅入っていく。でもこれは誰しもが持つ感情ではないでしょうか。

「新型コロナウイルスの影響を受け、子育てのことで何か困ったことはありますか？」の問いかけに、『子どもを遊ばせる場所がない』『ないが半数を占めていました。次いで『おむつや除菌シート、トイレットペーパーなどが手に入らない』『子どものストレス面が心配』『子どもとの時間が長くなり、心に余裕が持てなくなった』『食事の用意が難しい』『家事がなかなか進まない』『自分の仕事が手につかない』と続きました。遊びたい盛りのお子さまを遊ばせる場所に悩んでいる方が多いようです。また、遊べないストレスによるお子さまの精神面を心配する声も少なくないことが分かりました。

国のコロナ対策を重視しながら、ルームが実施した事は、これまで親しんだ生活や遊びランチを基本に、出来ることを時間短縮して立ち寄り場所としての開放を無料化したこと。具体的には遊具や絵本の貸し出し、お惣菜ランチで食べられたものの購入、短い時間でしたがお話しすることで、小さな確信の幸せを感じることが出来ました。誰もが置かれている困難さは平等です。ルームも今出来る事を見極め、明日への力になるよう励んでまいります。

■感謝・感謝の日々です

コロナ禍で、世の中全体が困窮状態にありながら、ルームは、今までの利用者さん・地域の方々に支えられ、どうにか運営が維持されています。最も大きい貢献は、大家さんの廣山紘一さんご家族のご好意でした。ルームの存在を何よりも認めてくれ、地域になくしてはならない居場所であるための援助をいただきました。

今後の問題として、運営の維持管理は大変厳しい状況ではありますが、この先のことも踏まえ居場所のスタイルを変えざるを得ないことも視野に入れ、利用者さん・専門職・地域社会・公的機関のご縁を大事にした子育て支援策を考えていきたいと思っております。今後の経過は通信などでお知らせ申し上げます。

■6月の予定とお願い



※コロナ禍がどこで一部解除・全面解除になるのか不透明ですが、いずれにしてもルームとしましては、状況を見ながら徐々に時間を延長するなどの方法を取りたいと思っております。せめて夏の遊びができるまでに世の中が回復することを願うばかりです。

※予定としては、「時短料理教室」「マママッサージ」できましたら、「カウンセリング」もと考えています。5月30日以降検討委員会の報告を聞いて、カレンダーでお知らせいたします。

※6月から金曜日午後代表が不在になることからお休みに致します。ご不便をおかけします。

※今年度の「二歳児遊ぼう」は、回数を減らし心理職の澤井先生が入り行います。これもコロナ禍によって変更があることご理解ください。詳細は追ってお知らせいたします。

